

通巻 630 号

紅葉坂

教会だより

説教

2024年1月NO.4
横浜市西区宮崎町1
日本キリスト教団
紅葉坂教会
牧師 荒井仁

「神の独り子」

荒井 仁

ヨハネによる福音書

3章 16節～21節

ら最初は、このイエス様が特別なプレゼントだとは、誰も気づかなかつたようです。ところが大人になったイエス様は、ある日家を出て神様の望まれる働きを始めました。イエス様がみんなに届けたのは、目に見えない神様の優しさでした。そして今まで出会ったことのない人とのつながりも与えられて、他の人たちと一緒に生きる心も届けられました。

イエス様を通してたくさんの人

クリスマスと言ふとクリスマスプレゼントを思い浮かべる人が多いと思います。このプレゼントは單なる「物」ではありません。贈つてくれる人の愛情のしるしです。

2千年前に神様はこの地上に、すべての人に向けたクリスマスプレゼントを贈つてくださいました。それがイエス様です。イエス様も最初は普通の赤ちゃんでした。他の子どもたちと同じように育つて、大きくなつていきました。ですか

そのことに皆は気付きました。ですからクリスマスは神様からすべての人にプレゼントが贈られた嬉しい日となりました。

先ほど読まれた聖書の中に「永遠の命」という言葉が出て来ます。これは天国に行つて神様といつまで生きられる」という考え方があ

ります。終わりのない命と言うことになります。これを与えてくださる神様の思いに心を向けると、神様が私たちに「生きていて欲しい」と願つているということになります。病氣があつても障がいを持つても、罪人であつたとしても、あなたに生きていて欲しい、この神様の愛情深い気持ちが「永遠の命」という言葉に込められていると思います。

これは今生きている人たちに対してだけ向けられるのではありません。既に亡くなつた人たちに対しても、神様は今も「永遠の命」を与えて、生きていて欲しいと願い続けてくださいます。ですから十字架で殺されたイエス様に新しい命を与えられました。

「永遠の命」ということでもう一つ示されることがあります。それは「つながり」です。人と人とのつながりがどこまでも続くよう願つてゐる神様の思いをイエス様は大切にしました。

人と人とのつながりが次々とつながつて、今では世界中の人たちと私たちはつながることが出来ます。人と人とのつながつてゐるのをみると、一緒にこの地球上で生きていることが分かります。遠くにいる人たちと自分がつながつてゐるのは不思議な感じがするかもしれません、同じ地球上に神様に生かされている仲間がたくさんいることがあります。

このような永遠の命を、イエス様によって与えられた一人として、ペレスティナ、ウクライナ、ミャンマーなど今、戦争に巻き込まれている子どもたちに、クリスマスプレゼントをしたいものです。それは物ではなくて子どもたちに必要な神様の愛と平和です。クリスマスの恵みを与えられた一人として、それぞれが出来る形で、愛と平和のクリスマスプレゼントを届けたいものです。

(2023年12月24日大人と子どもの合同クリスマス礼拝説教)